

製品名: CCR7 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe86544**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50mM トリスグリシン（pH 7.4）、0.15M NaCl、40%グリセロール、0.01%アジ化ナトリウム、0.05%保護タンパク質を含む溶液で提供されます。受領日から12ヶ月間安定です。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000
分子量	Calculated MW:43 kDa; Observed MW:43 kDa

抗原情報

遺伝子名	CCR7
別名	BLR2; EBI1; CCR-7; CD197; CDw197; CMKBR7; CC-CKR-7
遺伝子 ID	1236
SwissProt ID	P32248
免疫原	ヒト CCR7 の合成ペプチド

背景

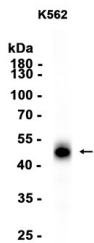
この遺伝子によってコードされるタンパク質は、Gタンパク質共役受容体ファミリーのメンバーです。この受容体は、エプスタイン

ン・バーウイルス (EBV) によって誘導される遺伝子として同定され、B リンパ球に対する EBV の作用のメディエーターであると考えられています。この受容体は様々なリンパ組織で発現し、B リンパ球および T リンパ球を活性化します。炎症組織へのメモリー T 細胞の遊走を制御し、樹状細胞の成熟を促進することが示されています。ケモカイン (C-C モチーフ) リガンド 19 (CCL19/ECL) は、この受容体の特異的リガンドであることが報告されています。この受容体によって媒介されるシグナルは、リンパ節における T 細胞の恒常性を制御し、T 細胞の活性化と分極、そして慢性炎症の病態形成にも機能している可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、複数の転写産物バリエーションが生じます。[RefSeq 提供、2014 年 9 月]

研究分野

-

画像データ



CCR7 ウサギモノクローナル抗体を 1:1000 で使用して K562 細胞抽出物をウェスタンブロット分析しました。